

宮城県立石巻西高等学校の方々と交流をしませんか。

KSVN・YSV 協働事業

東日本大震災の被災状況の教訓から【神奈川で学ぶこと・できる事】

東日本大震災で被災地区の高等学校としての当時の様子や避難所となった様子、遺体安置所にもなったその後の学校、そして現在の学校の取り組み。

生徒さん方との交流と防災カレンダーを制作し、防災意識の向上につなげたい。

・2月15日（土）午後 13:30～16:00 ごろまで 13:00～開場受付開始

やまと地域防災、減災事業

会場：大和市消防本部 3階講堂（大和市深見西 4-4-6）

講演 講和 など 齋藤校長先生

防災カレンダー作り（交流） 2時間程度

（会場が大和市消防本部の為、お車でのご来場はなるべくお控えくださいますようお願いいたします。）（ご来場は大和駅、鶴間駅等からのバスをご利用ください。）

・2月16日（日）午前 横浜市防災センター 研修室

（〒221-0844 神奈川県横浜市神奈川区沢渡 4-7）

9:15 時集合 9:45～10:30 石巻西高等学校 齋藤校長先生による講和

10:40～12:30 防災カレンダー作りと交流会

12:30～ 振り返り 質疑応答など

宮城県立石巻西高等学校の生徒さん、校長先生をお招きし、講和と防災カレンダー創りの交流を行いたいと思います。

防災カレンダー制作とは。

地域や学校等の行事、スケジュールなどを盛り込んだカレンダーに、地域・学校の防災計画や防災、減災に関する事を記入し日々のカレンダーに盛り込み、キッチンやリビングにカレンダーを掛け、日頃の防災意識の向上に役立てる事を目的とした、カレンダーです。

宮城県立石巻西高の生徒さんと一緒に防災カレンダー作りを行い、交流等も深めて頂けると幸いです。

お申し込みは下記へ、FAX かメールにてお申し込みください。

①参加希望日 ②参加人数 ③参加団体名 ④ご連絡先 受付次第順次当団体からご連絡します。（参加内容 事前打ち合わせが必要になります。）

申込先：神奈川災害ボランティアネットワーク（FAX 045-324-1120）

E-Mail info@ksvn.jp（氏名・住所・電話番号・所属）

主催：NPO 法人 神奈川災害ボランティアネットワーク

一般社団法人 やまと災害ボランティアネットワーク

宮城県立石巻西高等学校 HP

<http://www.inisi.myswan.ne.jp/school/koucyouaisatu.html>

石巻西高（東松島市、生徒580人）は防災意識の浸透を図るため、「防災カレンダー」を作製し、学校行事に加え、独自の防災計画や防災知識、訓練日程を網羅し、全校生徒に配布、通学時に地震が発生した際の避難経路を示す「個人マニュアル」作りを課題にする。同校は海岸から約4キロ。震災では校舎敷地への津波浸水は免れたが、自宅などにいた生徒11人が亡くなった。防災主任の教諭は「生徒が自ら考え、行動しなければ津波で命は助からない」と意義を強調する。

校長先生のお話から

クラス担任から配布された「生きるカノート」は、これまでいただいた義援金を活用して、全校生徒に配布したものです。各家庭の茶の間や台所において綴じ込んで、学校の様子が把握できるように活用してください。また実況中継だけではなく、学年や各部や教科からの配布物も一緒に綴じておいてください。卒業アルバムの次くらいに家族の大切な思い出になると思います。記録することと思い出の大切さを教えていきます。

また、今年度も防災主任の館内浩二先生が中心となって『西翔暦～防災カレンダー～』を作成しました。学校の年間行事としてだけでなく、学校の防災教育や家庭での減災に役立ててほしいと願っています。

ところで、私は常日頃から、次のような教育観をもって生徒達に接しています。

それは、「生徒を育てるのは生徒である」、「教師を育てるのも生徒である」、「学校をつくるのは生徒である」というものです。

「生徒を育てるのは生徒である」というのは、生徒同士が高め合うと生涯支え合える友情が芽生える。

「教師を育てるのも生徒である」というのは、生徒が本気になればなるほど教師は燃えるものである。

「学校をつくるのは生徒である」というのは、自分の考えを実践する生徒が多くなると学校は変わる。

という意味です。

今の学校には、生徒同士が教え合い・学び合い・高め合い・伝え合う教育活動が足りなくなりました。私は、この教えを通して、生徒達が「ひとつ上」の自分をめざすような生き方をし、変化の激しい現代社会をたくましく生き抜く人間力を身につけてもらいたいと考えています。

ぜひ、ご参加ください。 主催団体担当よりご連絡をさせていただきます。

東日本大震災で被災地区の高等学校としての当時の様子や避難所となった様子、遺体安置所にもなったその後の学校、そして現在の学校の取り組み。

生徒さん方との交流と防災カレンダーを制作し、防災意識の向上につなげたい。

東日本大震災の被災状況の教訓から【神奈川で学ぶこと・できる事】

参加申し込み

FAX かメールにてお申し込みください。

①参加希望日 ②参加予定人数 ③参加団体名 ④ご連絡先 受付次第順次当団体からご連絡します。(参加内容 事前打ち合わせが必要になります。)

申込先：神奈川災害ボランティアネットワーク (FAX 045-324-1120)

E-Mail : info@ksvn.jp (氏名・住所・電話番号・所属)

主催：NPO 法人 神奈川災害ボランティアネットワーク

一般社団法人 やまと災害ボランティアネットワーク

担当： ・森 ・市原

学校単位でのお申し込みの場合

一部 交通費のご負担をさせていただきます。(別途担当よりご相談させていただきます。)

ただし、その後の交流や人材育成の為、宮城県へのボランティアと交流、神奈川県内においての体験、経験、等のワークショップや交流会を行う行事等に、ご参加の意思のある団体を優先させていただきます。(強制ではありません、ご意志があればご相談させていただきます。) 交通費、宿泊費等の一部ご負担をさせていただきます。

3～5月頃(後日お日にちを調整させていただきます。)

(被災地までの交通費、宿泊費のご負担をご相談させていただきます。当団体負担)

個人でのお申し込みの場合も受け付けは致しますが、交通費等のご負担はご容赦願います。

①参加希望日

②参加予定人数

③参加団体名

④ご連絡先
